

冬山偵察報告

摩利支天峰
小太郎尾根

1963.10.25~30.

信大伊那松本山岳部

MEMBER

真野孝一 (L) 柴田武明 (食料) 平邦彦 西坂厚 (装備)
川川勝 宮崎誠孝 (26日入山)

M 25日 入山 北天峠にB.C建設

- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| ◎ 6:27 | 伊那北麓 | ① 11:10 | 八丁坂水場 |
| ○ 7:30 | 戸台 | | ESSEN |
| ⑩ 8:15 | 出 | ① 12:30 | 太平小屋 |
| ⑩ 9:05 | カム | ① 12:45 | 出 |
| ⑩ 9:20 | 出 | ① 1:30 | 北天長兵衛小屋 |
| ⑩ 10:10 | 角兵衛沢出合 | | |
| ⑩ 10:25 | 出 | | |

M 26日 雨のため決壊

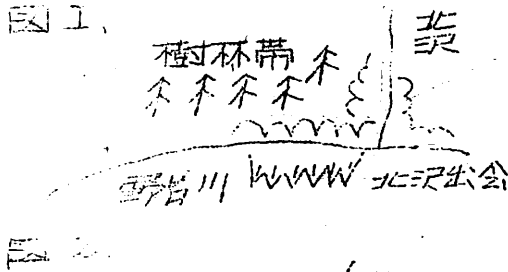
M 27日 小太郎尾根行

真野, 西坂, 宮崎 は小仏大沢の出合より 柴田, 平, 川川は 野呂川と北天との出合より 小太郎尾根に取付き, 下りはMember Changeをして 資料の交換並びに 比較をする。

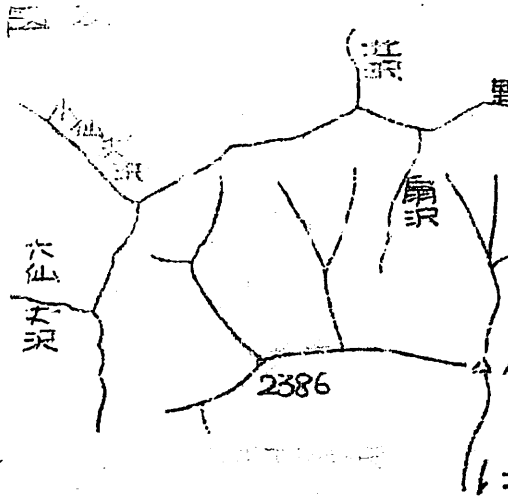
小仏大沢 上りー真野 西坂 宮崎
下りー真野 平 川川

- | | | | |
|-------|-----------|------|----------------|
| 8:05 | B.C. 巻 | 1:25 | 分岐員 (メンバーチェンジ) |
| 9:10 | 北天出合 | 1:45 | 出 |
| 10:30 | 徒渉員 (橋カケ) | 3:25 | 徒渉員 |
| 10:50 | 一本 出 | 3:35 | 雨が降り始める |
| 11:50 | 一本 | 5:10 | B.C. 着 |
| 1:00 | ESSEN | | |
| 1:10 | 出 | | |

図1、



急な凹角の所(約5m程)とつて
水平きかなトラバースを行ひ、野
呂川に出る。
北沢の出合を野呂川の右側に渡り、
石巻通しを行けるが、やはり左岸の
方が 河原の中も広く谷も深い。



取付きから主尾根に上るまで
は急傾斜であるが、以後は傾
斜も落ち尾根通しに行ける。
エケ所 岩がでて来るが、石
側をまければ 簡単である。
危険な箇所は ナタが木所
々にあり、雪がつかると結構し
る。
取付からナタメ、標識帯とも
かたりつけたし、単純な尾根
であるので、間違ふことも
あるまい。 越えたあとは
パーティ数も多く入っている
柳だ、踏跡も明瞭についてい
る。

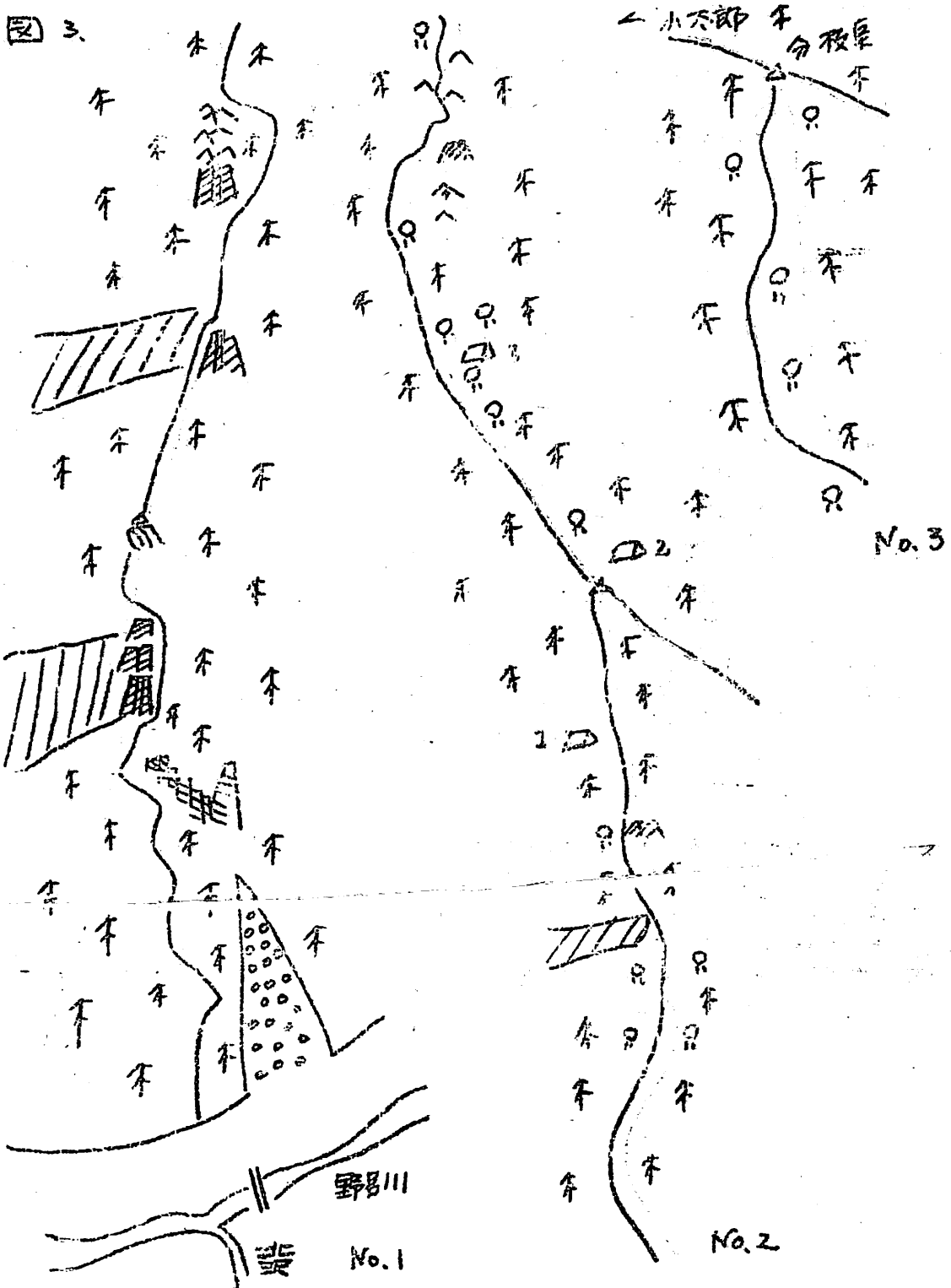
北沢出合班 上リ-柴田 平 小川
下リ-柴田 面阪 宮崎

- | | |
|-----------------|------------------|
| 8:05 B.C.出 | 1:20 今坂(ソニ-パーティ) |
| 9:10 北沢出合 | 1:45 出 |
| 9:30 出 | 3:05 一本(北沢出合) |
| 10:15 固食 | 3:55 |
| 10:35 出 | 5:10 B.C.着 |
| 11:25 一本(小尾根出合) | |
| 11:40 出 | |

北沢と野呂川出合より高巻を迂回して 丸不橋を渡り約30m位上
流に上リ かの身前より取付く(かもし上かゆるが急であり手が
かりがな) 傾斜40度位で 樹間が広し、以後 分岐点まで尾
根がたいに行けるが 岩峰は巻いた方がよい、東経工は緩急絡
にルートをとっている、このルートは時々小岩峰が出てくるので
手丈側を巻けば良い。
小尾根出合以上は干支側より野呂川下流側を巻いた方がよい、ナタ
ノ標識は北側に多くまちがう事はない。 又標識絡りは 産松や
アツミエが多く下流を巻いた方が 行きやすい。
分岐点手前はアツミエこそになる。

テニト地1は 非常に良い場所だが2.のテニト地には かううじて
 張ゆる位で3に張った方が良い。1.までは テニトを張る所は竹は
 ない。 尾根は やせており 傾斜が 多い。

図 3.

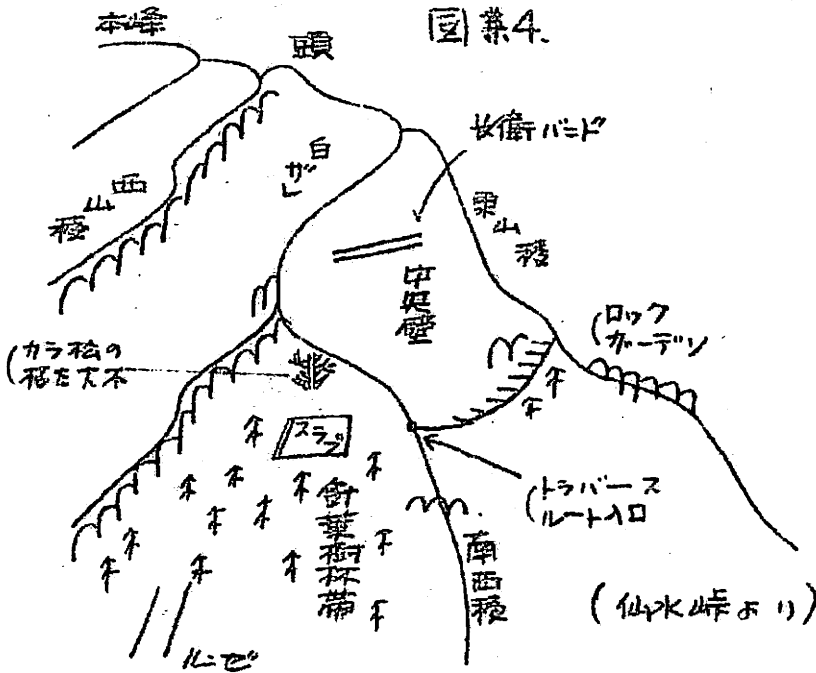


28日 摩利支天峰行

○南西稜班 貞野 小川

7:50	B. C. 裕	2:10	甲斐駒	ガイル	40m
8:30	仙水峠	2:30	ESSEN	トンカチ	1
9:05	水場(沢)	3:35	仙水峠	カラビナ	4
9:45	睡	4:20	B. C. 穂	ハーケン	下 1
10:40	バニド復察				上 1
11:35	ESSEN				
1:00	白ガレ				

(一日中高雷り
几強し)



取付きより寝立は、はじめルニセをつめて中固より復壁の基部に出、忠實に基部通しに行く。壁に出る 20m程を方に移した穴がある。ここよりトラバースをして バニドの入口に達する。バニドの入口は明瞭で 幅も広く (5m) 完全に中央壁に取付けし 南西稜もこのバニドより中央壁の基部へ出て ロック・ガーデンの上に出るのが良いと思う。



- ②~① 取付きの大木を不ナリ圧にトラバース(2本の木がまきといる)して凹角状の所を登ると、ガラガラの下ラスへ出る。
- ①~② 2m程登りトラバースをする(約15m)。
- ②~③ 右側をからみまめにブツミユをつかんで登る。
- ③~④ ガラガラの所。コニテマス。
- ④~⑤ 右側の凹角状の所を登り、右側を巻く。
- ⑤~⑥ ブツミユ帯。右にまきまめ。
- ⑥~⑦ 始め、凹角にトラバースして入る。このトラバースが悪い。(2m)。ブツミユ付きの凹角を(5m)抜ける時稜線に座す。右にハニグ長峰の凹角(3m)がある。上げニマクナゲの寝生して下所に出る。
- ⑦~⑧ コニテマスで白ガシを通り摩利まで容易。

我々が通ったルートは緑色の-----で表わした。
 完全にリッジをまく旅に作るか-----モルートとして可能と思わぬ。

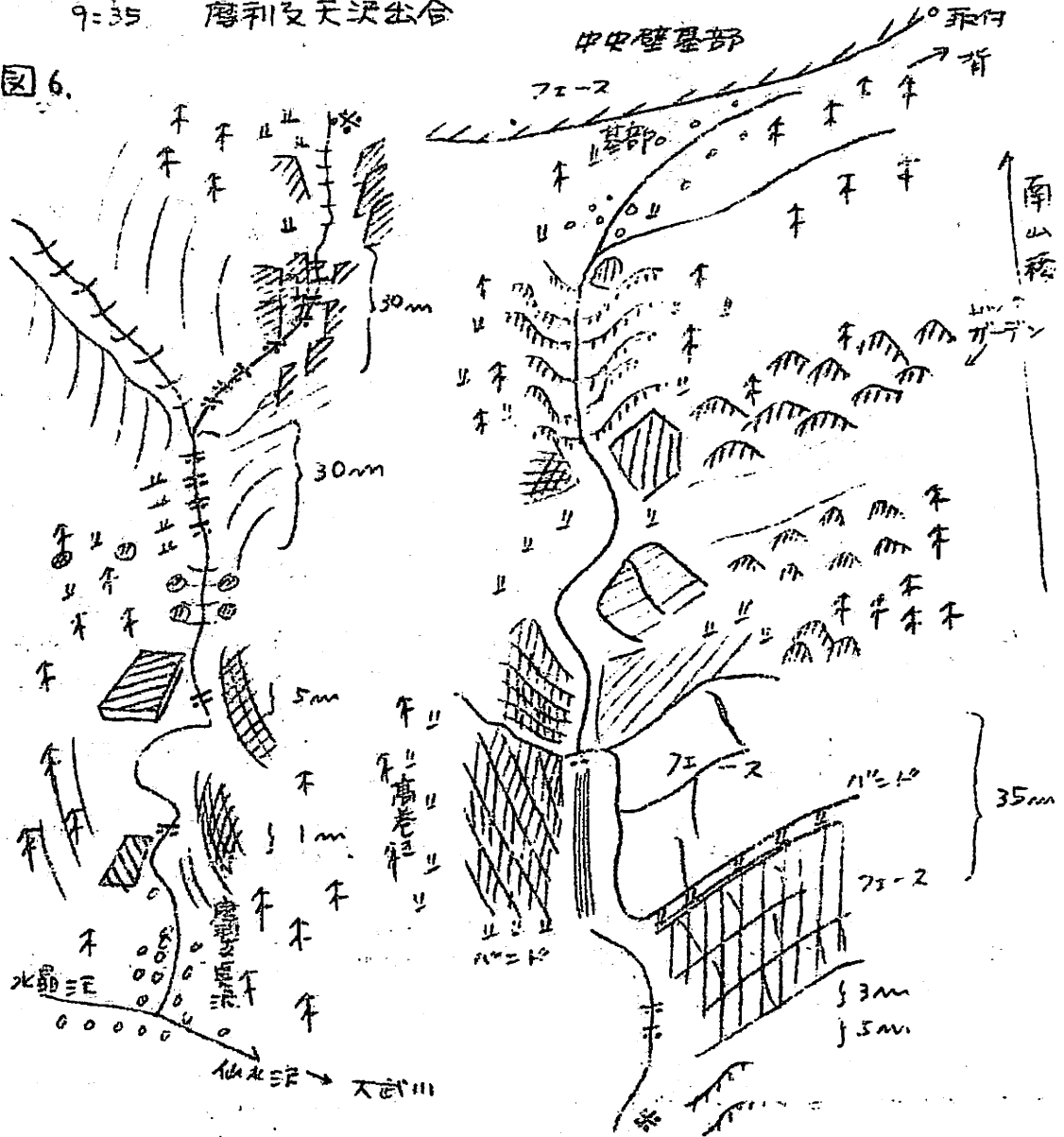
南面稜はブツミユの間に岩が顔を出している所が面白くルートではナリが雪が厚くと少しは高いかも知れぬ。
 中央壁側は完全なブツミユ帯で下木もあま。

○中央壁 味田 西段

↑ 摩利支天沢末端より中央壁基部まで

- | | | | |
|------|---------|-------|-------|
| 7:50 | B.C. 出 | 10:15 | 一本 |
| 8:30 | 仙水峠 | 11:35 | 中央壁基部 |
| 9:35 | 摩利支天沢出合 | | |

図6.



沢登りとしてリッパルートと分る位は 摩利支天沢から南山稜
 中央壁をアタックするのほ くれ無運が 掛り可至多。
 最後の35mの地は高巻になりとガイルの必要性あり。
 冬はこのルートを通るとろいば、中肉奥までほ深が「E」で高巻は
 出来なし。 稜筋からの ナダレの危険性は少ないにうが上
 からは 分るが。

中央壁、南山稜へは摩利支天沢からフェース基部を通過して取り付く。

2.	12:45	登攀開始	5:00	駒津一本	ガイド 40m
	2:20	長衛バニド	5:37	仙水峠	アブミ 1
	3:40	登攀終了	6:35	B.C.着	カラビナ 4
	4:00	出		(尚真に続く)	ハンチ 2
					Y 3
					アズ 1

図 7.

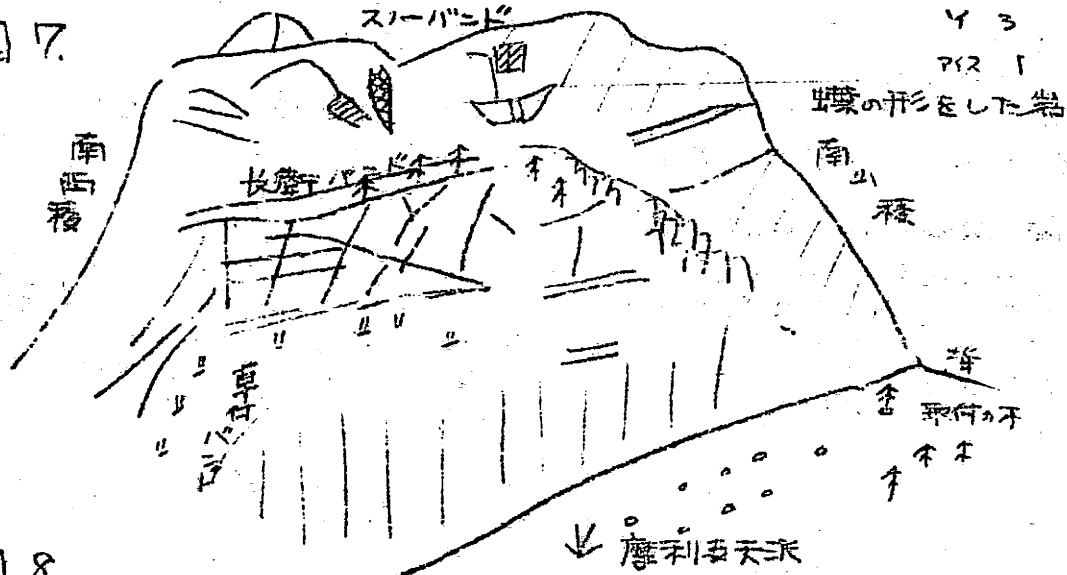
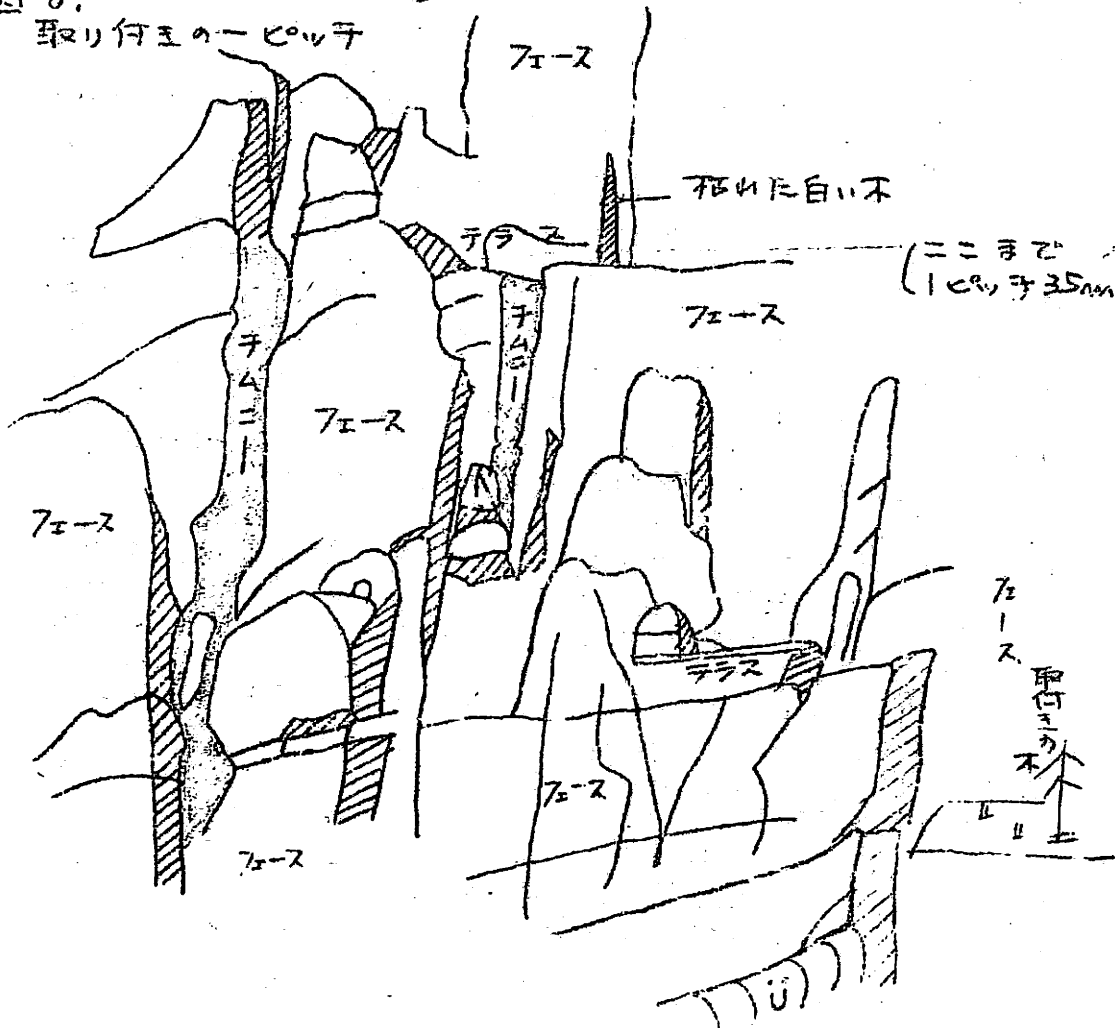


図 8.

取り付きのカービッチ



最初の1ピッチが非常にむづかしく アブミ1つと 吊り上げ
で最初の凹部での壁を上り チムニーに入らず 小さな足がかりで
右チムニーの左側に掛、ハーケンに尊びかかして テラスに行く。
冬の場合 アブミが3つか4つ必要と思う。

4峰峠ルート以上のグレード。 この1ピッチ以外は問題にする
ような所はない。

但し、アブミの数が不足であれば 登攀終了から北天テニト
地まで2時間以上かかる事に気を付けておくがよい。

○南山後班 平 宮崎

摩利支婁末を40分程 ツ×下所に40m位の 2段の壁の手前から南山
後に取り付く。(出合がちはここにて30m位の壁が2つある) 残す
で10分程なのである。 ロックガーデンとまで1ピッチの所。

取り付き處から上を仰ぎ見ると赤茶色の オーバーハングが見え
る。ここを目標に登るのである。

- 1ピッチ: 40mギリギリまで登るとピレーに辭合のより不が
ある。(取り付き處から見えたり)
- 2ピッチ: 左側トラーバーヌレフクニヨをきかして段々ス
イルで登る。きのすぐ上に入ると薄氷がみえるので、
片山をピレーに使う。
- 3ピッチ: 一見、右側に行けようだが 等らけもし中央壁(赤
布のつらしたハーケンが見える)があるから、右に
トラーバーヌレ、エリつまた、アブミユカをとりあ
ラックを登るとバニドに出る。赤布のシルはあるが
左トラーバーヌレして 1番筋の赤布ピレーに使う。
- 4ピッチ: クラックを10m弱登ると、右側にかつてりと効いて
いるハーケンがある。ここを支点にして 右のクラ
ックに移る。登りバニドに出ると赤トラーバ
レ、赤布ピレーあり。
- 5ピッチ: エリつまたを2つ傾斜の中をいれ、セバの所を登る
ここから取り付き處から見えた赤茶のオーバーハングが
すぐ近くに見える。
- 6ピッチ: スラックの中央をほし草付を登ると、互端のルニ
ゼを登ると2コースあり。草付の所はタケカニ
バを利用した2~3m登ると ハーケンが打つた
所からここへ登る。赤布は ハーケンの打つてい
る小土台テラスに出る。シルは赤布があるが こ
でピレーありとよい。
- 7ピッチ: 少し左斜上に登ると行く、右側には半分打ち込まれた
アイス・ハーケンがある。白登山まで5m位の所に
赤布の着いたハーケンがある。ここを利用し 白ガ
レに出て登ると 終了である。ここから摩利支婁
頂上までの2分はアスで 15分弱である。

全体の注意として中央壁にこちい込みのゆえう、又東壁に出るには赤色のオーバーハングを目標して登ることあり。尚、岩の質感が激しくボロボロである。

図 9.

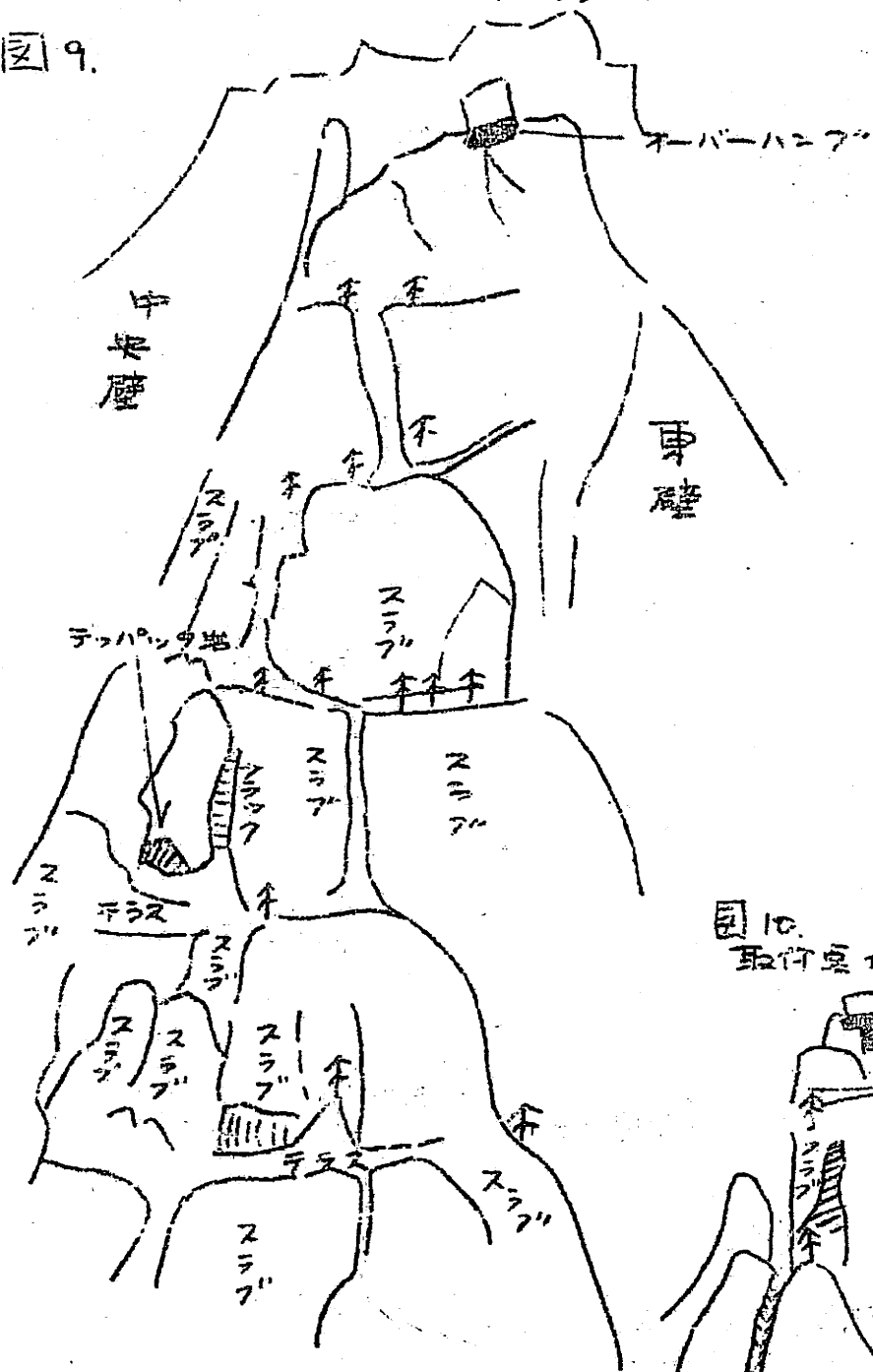
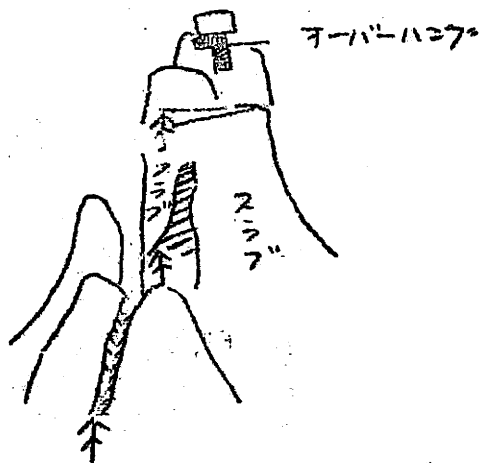


図 10.
取付点からの図



☐ 29日 三ヶ殿 and 下山

紫田, 真野の2ヶ下山。 往は三ヶ殿

☐ 30日 下山

B.C. 徹底し下山する。

この印刷。文理専全課の新らしい機械を拝借して行いまして。ルート図を書くのが、モロ紫に出発する。色刷りも可能である。御用の折は、何時なりと。

Don Mako